

平成 29 年度秋期

スーパーバイザー士筆記試験

平成 30 年 1 月 17 日 (水) 実施

13:30~14:30

3. 財務・問題解決

(該当講義 講義③、⑥、⑦)

答案作成上の注意

- ◇ 係りの合図があるまではこの表紙をあけないでください。
- ◇ 解答は解答用紙に記入してください。
- ◇ 試験時間は 60 分です。
- ◇ 試験開始後 30 分で退出できます。
- ◇ 退出される際には、出入口にいる事務局員に解答用紙を提出してください。
- ◇ 再入場はできません。



一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会

財務諸表の知識(税務含む)

【問題 1】

次の 1～10 の取引から解答用紙の貸借対照表と損益計算書を作成しなさい。特に記述のない場合には、それぞれの取引は現金で行ったこととする。なお、解答にあたっては数字の単位に十分気をつけること。

1. 当社は 01 年 4 月 1 日に資本金 7,000,000 円で設立した。決算日は 3 月 31 日。
今期の事業年度は 01 年 4 月 1 日～02 年 3 月 31 日 (以下、「今期」という)
2. 今期の売上高は 100,000,000 円であり、このうち 1,000,000 円は未回収である。
3. 今期の仕入高は 30,000,000 円であり、このうち 3,000,000 円は未払いである。
4. 02 年 3 月 31 日に商品の棚卸しを行った結果、仕入金額ベースで 300,000 円分あった。
5. 今期の役員・従業員に対する給与は総額で 30,000,000 円であった。
6. 01 年 4 月 1 日に金融機関から 30,000,000 円借り入れた。返済期間は 7 年。今期中に返済した元本の額は 4,300,000 円であり、今期はこの元本返済の他に支払利息 600,000 円を支払った。
7. 固定資産 (器具備品) の購入価額は 25,000,000 円であり、01 年 4 月 1 日から事業用として使用している。
8. 上記 7 器具備品の耐用年数は 10 年 (定率法による償却率は 0.20)。定率法により今期の減価償却費を計算すること。
9. 今期に支払った家賃は 15,000,000 円。
10. その他今期の諸経費として 12,000,000 円支払った。

【問題 2】

次の 1～5 の文章の記述が正しい場合には○を、誤っている場合には×を解答欄に記入してください。なお、解答に際しては下記【参考①】【参考②】を使用しても良いこととします。

【参考①】給与所得控除額表 (給与所得者の概算経費の速算表)

給与収入金額		給与所得控除額
162.5 万円以下		65 万円
162.5 万円超	180 万円以下	給与収入金額×40%
180 万円超	360 万円以下	給与収入金額×30%+18 万円
360 万円超	660 万円以下	給与収入金額×20%+54 万円
660 万円超	1,000 万円以下	給与収入金額×10%+120 万円

【参考②】個人所得税率表 (速算表)

所得金額	所得税率	控除額
195 万円以下	5%	0 円
195 万円超 330 万円以下	10%	97,500 円
330 万円超 695 万円以下	20%	427,500 円
695 万円超 900 万円以下	23%	636,000 円
900 万円超 1,800 万円以下	33%	1,536,000 円

1.	1年間の給与収入が103万円の人、給与所得控除額が65万円であるため、給与所得額は38万円となる。そして、すべての納税者に基礎控除額38万円が適用されるため、課税所得金額は0円となり、所得税額は0円となる。
2.	1年間の給与収入が500万円の人、給与所得控除額は、1,540,000円である。
3.	1年間の給与収入が1,000万円の人、給与所得控除額は、1,764,000円である。
4.	直接税の代表的な税目は、所得税、法人税、相続税であり、納税義務者と税金負担者が同じである。
5.	フランチャイズ本部が、基本的に加盟店に返還を要しない加盟金や契約金を加盟店から受け取った場合には、その加盟金や契約金は、フランチャイズ本部の収入として計上され、加盟店側ではその金額にかかわらず、支払い時に必要経費または損金として計上しなければならない。

【問題3】

中古取得した資産の減価償却を行う場合の耐用年数は、その資産の残存耐用年数を合理的に見積ることが原則となっていますが、「合理的に見積もること」が困難な場合が多くみられます。そこで税務においては、次の表のような方法（簡便法といいます）で計算した耐用年数を使用することができるものとしています。

【簡便法による耐用年数計算】

法定耐用年数の全部を経過している場合	法定耐用年数×20/100
法定耐用年数の一部を経過している場合	(法定耐用年数－経過年数) +経過年数×20/100

(注) 上記算式で1年未満の端数は切捨て、また、2年未満となった場合は2年とします。

上記のことをふまえて、以下の問の文中の（ア）（イ）にあてはまる数字を記入しなさい。

前の使用者が10年間使用した乗用自動車（法定耐用年数6年）を取得し、事業の用に供した場合には、耐用年数（ア）年で減価償却計算を行うことができる。

前の使用者が5年間使用した乗用自動車（法定耐用年数6年）を取得し、事業の用に供した場合には、耐用年数（イ）年で減価償却計算を行うことができる。

計数管理の知識

【問題 1】

次の文章を読み、正しいものに○、誤りのあるものに×を記入してください。

1.	総資産経常利益率は、運用している総資産でどの位の経常利益を生み出したかを示す。
2.	売上高営業利益率の向上は、営業外費用の低減によって実現できる。
3.	廃棄ロスの削減は、売上総利益率の向上に結び付く。
4.	総資産回転率の向上のためには、特に資金滞留が起こりやすい棚卸資産、売上債権、固定資産の回転率をチェックする必要がある。
5.	損益分岐点比率は、数値が高いほど良好といえる。
6.	損益分岐点の引き下げは、変動費率の引き上げと固定費の引き下げにより実現できる。
7.	流動比率は、100%以下が理想とされる。
8.	固定長期適合率は、100%以上が最低必要水準である。
9.	自己資本比率向上は、収益性を改善し、利益を上げて内部留保することで実現できる。

【問題 2】

下表はカフェを運営するフランチャイズ加盟店の月次損益計算書です。次の文章の空欄に適切な記号（大文字のアルファベット）を語群より選択し、解答欄に記入してください。

項目	金額(千円)	構成比	
売上高	3,500	100.0%	
売上原価	1,000	28.6%	
売上総利益	2,500	71.4%	
販売費・一般管理費	1,930	55.1%	
販管費の内訳	人件費	1,000	28.6%
	水道光熱費	200	5.7%
	販売促進費	50	1.4%
	減価償却費	140	4.0%
	地代家賃	330	9.4%
	その他	210	6.0%
営業利益	570	16.3%	

当店の損益分岐点売上高は、売上原価を変動費、販売費・一般管理費を固定費とすれば（ ① ）になる。したがって、損益分岐点比率は（ ② ）、安全余裕率は（ ③ ）である。固定費及び変動費率に変化がない前提下、営業利益 800 千円を達成するためには、目標売上高は（ ④ ）が必要になる。

A. 2,703 千円	B. 6,748 千円	C. 51.9%	D. 77.2%
E. 22.8%	F. 48.1%	G. 9,545 千円	H. 3,824 千円

問題解決手法

【問題 1】

以下の問いに記号で答えてください。ただし答えは一つとは限りません。

1. SVの機能として求められる5C+Pについて、以下の記述で正しいものを選びなさい。
 - (ア) コンサルティング機能とは、加盟店の経営改善をサポートする機能である。
 - (イ) カウンセリング機能は、加盟オーナー等に対する精神面でのサポート機能である。
 - (ウ) コーディネーション機能は、統制機能とも言われる。
 - (エ) プロモーション機能とは、FC本部の実施する全体販促を推進する機能である。

2. MECEになっていないのはどれか？
 - (ア) 飲み物は、ノンアルコール飲料とアルコール飲料に分解できる。
 - (イ) 飲み物は、清涼飲料と炭酸飲料に分解できる。
 - (ウ) 顧客は、社会人と学生に分解できる。
 - (エ) 顧客は、20歳未満と20歳以上に分解できる。

3. 問題を細分化するために売上高を細分化する視点として正しい記述はどれか？
 - (ア) 売上高を時間軸や商品軸などで細分化することで問題を細分化しやすくなる
 - (イ) 売上高を細分化しても、問題の細分化には役に立たない。
 - (ウ) 売上高を細分化する視点として、顧客の利用動機は役に立たない。

4. 問題を絞り込む方法について、以下の記述で正しいものはどれか？
 - (ア) 他店との比較は、問題の絞り込みにはあまり有効ではない。
 - (イ) グラフや表などは作成に手間がかかるのであまり活用しないほうが良い。
 - (ウ) 問題を絞り込む際には、あるべき姿との乖離が大きいというポイントが重要。
 - (エ) いくつかの問題のなかで改善しやすいものを選ぶことも有効だ。

5. 原因究明について以下の記述で正しいものはどれか？
 - (ア) 原因は、細分化した問題を裏返すことで容易に究明できる。
 - (イ) 3C分析は、原因究明の手法として有効である。
 - (ウ) 原因を絞り込む際には、以前と比較して変化の大きい要素を特定することがポイントとなる。

6. 因果関係について、以下の記述で正しいものはどれか？

- (ア) 売上が低下したので賞与が削減された。
- (イ) 業務改善を行ったので客数が減少した。
- (ウ) 雑誌で自店のことが取り上げられたので客数が増加した。

【問題2】

以下の文章の空欄に正しい言葉を語群から選び、記号を記入してください。

問題には、(1) 問題と(2) 問題と(3) 問題の3つのタイプがある。

(1) 問題には、(4) 問題と未達問題があり、原状復帰型問題とも呼ばれ、(5) の問題解決を行うタイプと言われている。

(2) 問題とは、「現状よりもっと良くしたい」という現状見直し型の問題解決を行うタイプである。

(3) 問題とは、この先どうするかという問題解決を行うタイプ。つまり、将来の(6) に基づいて(7) して問題把握、問題解決を行うタイプを指す。

(3) 問題には、(8) を行う(9) 問題とリスクマネジメントを行う(10) 問題に分類される。

ア 突発型	イ 戦略型	ウ 発生型
エ 利害調整	オ 未来志向型	カ 目標設定
キ 探索型	ク 原因志向型	ケ 設定型
コ 理念策定	サ 環境変化予測	シ 経営
ス 戦略策定	セ 回避	ソ 逸脱
タ 調整	チ 開発	ツ 統制

